

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	消防車両で公道を普通走行中、右後輪内側のタイヤが破損した事例。
3. 体験した事例の中心的要素	警戒（焚き火）事案を終息させ、タンク車で帰署中に時速約40kmで一般道を走行中、タンク車後部より爆音と同時に車両がふらついたため、速やかに停車させ確認したところ右後輪内側のタイヤがバーストしていた。署まで約1km位であったため、徐行運転で帰署し、タイヤを交換したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	即日、修理業者に確認してもらったところ、タイヤの溝の有無よりタイヤ両側面のヒビ割れや亀裂があるとバーストの恐れがあることが判明した。また、7～8年使用したタイヤは内部の糊が剥がれバーストの恐れがあることも判明した。 今後、車両点検時にタイヤのヒビ割れや亀裂の確認を行い、早めにタイヤを交換すること。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	
------------------	--

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 20年 7月 11日	午後 8時頃
2. 発生した当時の天候	晴	
3. 発生した活動現場	屋外：片側一車線の県道	
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	交通事故	
7. 事例体験時の活動	その他： []	
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：片側一車線の県道を普通走行中発生	
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。	

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[26]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4]年、階級[消防副士長]、同様の活動 [1年に数度]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者	午後7時30分頃、警戒（焚き火）事案が発生し、出動する。	
経過2	当事者	午後8時頃、事案を終息させ、現場より引き揚げる。	
経過3	当事者	帰署途上、通常走行中に突然、タンク車後部より爆音が聞こえ、車両がふらつく。	
経過4	当事者	タンク車をすぐに停車させ、タイヤの状況を確認した。（右後輪内側タイヤ破裂）	
経過5	当事者	署まで近距離であったため、徐行運転にて帰署した。	
経過6	当事者	タイヤ業者へ連絡し、タイヤ交換を実施した。	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

避難・退避がうまくいった。他隊(員)から適切な注意を受けた。たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：タイヤの破裂の危険性を考慮し、タイヤの使用年数や、亀裂及び溝の状態を点検時に、把握しておくべきであった。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

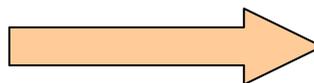
消防ヒヤリハットデータベース情報提供用(状況図)

発生時の状況

平成20年 7月11日 午後8時頃



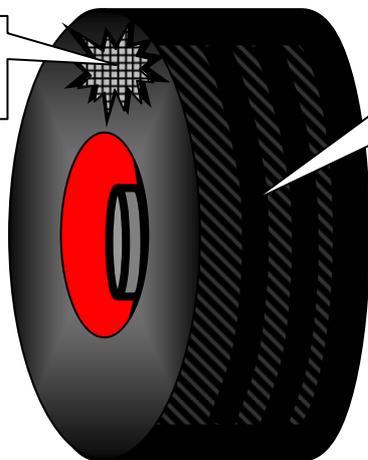
時速40km/h
で通常走行中



時速40km/hで通常走行中、突然「パン！」という爆音が聞こえ、車両がふらついた。

破裂(バースト)したタイヤの状況(右後輪内側)

タイヤ側面が破裂したもの。



破裂後、確認したところ溝がかなりなくなっており、タイヤ自体の老朽化がかなり進んでいた。